

所 報

氷見市教育総合センター

〒935-0016 氷見市本町4-9

(氷見市教育文化センター内)

TEL 0766-74-8220 (代)

FAX 0766-72-8122

e-mail kyouikukenkkyu@city.himi.lg.jpホームページ <http://www.city.himi.toyama.jp/hp/>

departmentTop/kyouiku-i/kyouikukenkkyu

自分は何でできている

氷見市小学校長会 会長

氷見市立朝日丘小学校 校長 鶴 賢行



かなり昔になるが、養護の先生や保健体育科の先生から、「人は自分が口から食べたものでできているのよ、しっかり食べなさい!」と何度も指導されたことを憶えている。保健体育科を専攻していた私は、その言葉が腑に落ちたのか、自分から積極的に体づくりに励んできた。

しっかり食べて、十分な睡眠をとり、良くも悪くも立派な体となった。そのお陰かもしれないが、30代で一度左足のアキレス腱を断裂した以外は、大きな病気もせず、ここまで教職の仕事をしてこられたことに感謝している。(腱断裂は大きな病気ではありませんでしたが、早朝の怪我であったことで、学校の先生方には大変なご負担とご迷惑をおかけしました。当日が学習参観日であったことは、今も忘れていません。この場をお借りしてお詫び申し上げます。)

怪我の後も多く仲間と朝刊野球に挑戦し、楽しい時間を共有できたのは、体がしっかりと動いてくれたからに他ならない。しかしながら、心と体というように私たちには大切な心がある。さて、私の心の方は何でできているのだろうか。

感情の揺れ具合、物事に対する判断、知識・理解等々、私の心は全て今まで積み上げてきた学び(経験も含めて)によってつくられているといえる。

両親、祖父と共に過ごした幼いときの経験、大好きだった仲間とのつながり、学校の先生や先輩からの教え、本やメディアからの情報、愛する家族との出会い、そして、教職に就いてからの先生方や子供たちとの出会い、その全ての学びのかたまりが、今の私なのだろう。

だとすれば、そのかたまりの中核を形成しているのは、もちろん家族が一番ではあろうが、それに次ぐのは、やはり義務教育9年間の学びだったように思う。

学びの基礎・基本を徹底的に、怖いくらいに厳しく教えてくださったM先生…

中間の大切さを真剣なまなざしで説き、親身になって話を聴いてくださったN先生…

心が病んで、だめになりそうになったとき、「大丈夫、あなたには強く、ぶれない心がある」と力付けてくださったS先生…

日が暮れ、ボールが見えなくなるまで、延々と黙々とノックをしてくださったT先生…

まだまだいくらでも紹介できる。いくつになっても憶えているものだ。

もしかしたら私の心の大事な部分は、この先生方のDNAで構成されているのではないかと今になって思い当たることがいくつもある。

教育の力とはどのようなものであるかは、私には明言することはできない。しかし、短い時間だけを切り取って見れば、その全てを示すことはできないといえる。こうやって40年、50年を経て、自分自身で感じることでしか分からないものが、きっとあるのではないかと。

そう考えてみると、当の私は、齢六十にして誰かの心のDNAの一部にちゃんとなっているのかしらんと心配になってくる。

いや、まだ分からないことなのだと考えよう。あと十数年、いや何十年経ったとき、誰かが、ふと思い起こしてくれるだけで十分である。

どんなことに直面しても、強く生きる子供たちの育成を心より願うとともに、安らかな暮らしが一刻も早く皆様に訪れることを祈念いたします。

ICT教育推進委員会

ICTの効果的な活用を目指して

西の杜学園 教頭 焼田 ちあき

1 「ICTを活用した授業づくり研修会」の開催

ICTを活用した学習指導に関する実践的な研修を行うことを目的として開催しました。湖南小学校では、プログラミングソフトを使った動画作成を、西の杜学園では、児童のアイデアを「MESH」で実現する仕組みづくりを、十三中学校では、「Teams」を使った資料の共有を取り入れた授業が提案されました。各校での取組等を基に活発な意見交換が行われ、充実した研修会になりました。



[提案授業の様子]

2 各学校におけるICT活用推進と実践事例のHPへの掲載

今年度も各学校において、ICT教育推進委員が中心となってICT活用を進めました。各校の事例はHP「まなDX氷見」に掲載されておりますので、ぜひご覧ください。

ふるさと教育推進委員会

氷見の魅力に溢れる「ふるさと氷見」の更なる活用を

湖南小学校 教頭 干場 恵利華

本委員会では、今年度、「ふるさと氷見」の改訂を行いました。第2版の内容を見直し、グラフや表等のデータを最新の数値にするだけでなく、氷見市芸術文化館等、新設された施設の情報を記載しました。また、富山県栽培漁業センター、マコモタケづくり、SDGs 未来都市、令和6年能登半島地震等、新しい内容をできる限り加えました。

さらに、QRコードを設け、デジタル氷見や各施設のHP、動画等につなぎました。知的好奇心を高め、詳しい情報に自らアクセスする主体的な子供の姿を期待しています。



[高岡広域圏氷見消防署柳田出張所]

今回の改訂にあたり、各施設には多大なご協力をいただきました。おかげで、氷見市の魅力に溢れた学習資料となりました。子供たちが、今後も、ふるさと氷見への愛着と誇りを抱き、地域に働きかけていくことができるよう、更なる活用を望みます。

ひみっ子の夢と希望 きらめき推進事業 講演会

11月14日(火) 氷見市芸術文化館

演題 「絶望から世界の舞台へ」

講師 宮島 徹也 氏 (東京2020パラリンピック男子車いすバスケットボール銀メダリスト)

氷見市では、氷見の教育基本方針の基本理念として、「ふるさと氷見を愛し、次代を担う人づくり」を掲げ、中学校2年生、義務教育学校8年生を対象に、郷土の著名人や一流選手等を招いて講演会を開催しています。今年度は、パラリンピック男子車いすバスケットボール銀メダリストの宮島徹也氏を講師に招き、講演会を開催しました。

宮島氏は、足の切断という大きな試練を乗り越えて生きてきた自身の姿を力強く語られました。「家族や友達、周りの人々に感謝の気持ちを忘れないこと」「夢中になれる何かを見付け、それを大切にすること」「夢を実現するために努力を積み重ねること」「考え方のヒント」など、生徒にとって、これからの生き方の参考となる言葉をたくさん届けてくださいました。



- ・夢を叶えるには、「あきらめずに努力すること」「自分自身を信じること」が大切だと学びました。これからは、苦手なことにも挑戦しつつ、友達との時間、家族との時間、先生方との時間等、1日1日を大切にしていきたいと思いました。
- ・人としての生き方について深く学べました。たとえ競技が違っても、僕は宮島さんにあこがれをもちました。大きな挫折を乗り越え、バスケットボールに取り組む宮島さんの講演を聞くことができ、本当によかったです。
(生徒の感想より一部抜粋)

令和5年度 教育論文・教育実践記録募集の審査結果

今年度の教育論文・教育実践記録の募集に対して、小学校・義務教育学校（前期課程）の部に7編、中学校・義務教育学校（後期課程）の部に4編、計11編の応募がありました。対話を重視し、自らの思いを積極的に表現することを目指した実践、学級づくりや授業づくりを軸にした実践、主体的な追究に焦点を当てた実践等、多岐にわたる内容でした。

各部の審査結果は、下記のとおりでした。



[表彰式の様子]

< 小学校・義務教育学校（前期課程） >

※ 優秀賞・優良賞は、学校番号順に記載

賞	学校名	氏名	研究主題（副題を除く）
最優秀賞	宮田小学校	金森侑里恵	自分事として課題解決に取り組み、地域への誇りと愛着をもって学び続ける子供の育成
優秀賞	朝日丘小学校	矢後 祐樹	異学年集団が主体的に取り組む自立活動の実践
優秀賞	窪小学校	大越咲由莉	互いを認め合い、主体的に行動する子供の育成
優良賞	比美乃江小学校	関原 宙希	自ら考え、主体的・対話的に活動する子供の育成
優良賞	比美乃江小学校	藤井 晶帆	学校が大好き・友達が好き・学ぶことが好きな子供の育成
優良賞	湖南小学校	安土 香	仲間と関わる喜びを通して、自分の思いを表現する子供の育成
優良賞	海峰小学校	廉 千怜	豊かに関わりながら、学び合う子供の育成

< 中学校・義務教育学校（後期課程） >

賞	学校名	氏名	研究主題（副題を除く）
最優秀賞	十三中学校	引谷 樹	「分かる」「できる」を実感し、主体的に「読み」を深める生徒の育成
優秀賞	西條中学校	小林 真子	社会的な見方・考え方を働かせ、社会的な事象を主体的に追究する生徒の育成
優良賞	南部中学校研究部 森永 真未 西出 裕太 竹内 奎人	柳澤 拓哉 宮下奈々恵	主体的に学び、判断し、表現する生徒の育成
優良賞	北部中学校	西森 友和	主体的にコミュニケーションを図り、自分の思いを伝えることができる生徒の育成



[実践発表の様子]

2月14日（水）には、教育委員各位を迎えて、表彰式を行いました。鎌仲教育長からの授賞、山口所長の講評の後、最優秀賞受賞者の宮田小学校 金森侑里恵 教諭と十三中学校 引谷 樹 教諭から、教育実践発表をしていただきました。

詳細については、当センター発行の「令和5年度教育論文・教育実践記録集」をご覧ください。

学級づくりについての研修会(オンライン研修)を開催しました。赤坂先生から、学級づくりには、型を共有する必要があることや、次のポイントについて学びました。

- ①学習環境の最適化を図ること、即ち、学級経営を充実させることで、学習意欲が高まり、学力の向上につながる。
- ②学級経営の3領域(①温かさをつくる、②できることを増やす、③共に学級をつくる)を意識しながら、年間を通じて学級づくりを行う。
- ③教師が、「織物モデル」が示している、縦糸(ルールの遵守)と横糸(親和性の構築)の張りのバランスをとって働きかけることで、学級経営の充実を図る。
- ④教師が「専門性」「指導の一貫性」「つながりやすさ」「適切なサポートによる安心感」を示し、子供との信頼関係を構築する。



＜参加者の声＞

- 子供との信頼関係を構築することや、褒めることの大切さについて改めて気付きました。「縦の糸、横の糸」を意識し、自己の学級経営について振り返りをしたいと思いました。
- 教師の信念や一貫性が子供の変容につながると知り、自分の考えを見直すことが大切だと思いました。子供たちと信頼し合えるような関係性を意識して、学級づくりをしていきたいと思いました。

新規採用教員 - 1年間を振り返って -

子供たちとの1年間を振り返って

窪小学校 北河 琴



4月に3年2組の子供たちと出会って1年間が過ぎようとしている。初めは、子供たちに向けて話をするのが精一杯だったが、一人一人と向き合い、話を聞き、様々な活動を行ううちに、子供たちが何を考えているか、表情を見るだけで分かるようになってきた。今では、自信をもって子供たちの前に立つことができている。子供たちと関わる時間が、私にとって心地よいものとなった。

3学期に入り、子供たちの授業で教え合う姿、大縄跳びの記録を伸ばそうとチームみんなで頑張る姿等を通して、成長を感じている。これからも支えてくださった学校の先生方への感謝を忘れずに、子供たちと共に日々成長していきたい。

「ほっ」と落ち着く保健室を目指して

湖南小学校 東海 陽香



子供の頃からの夢だった養護教諭となり、早くも1年間が過ぎた。今日までを振り返ると、毎日が初めての連続で、救急処置や保健指導、感染症対策、健康相談等の日々の業務をこなすことで手一杯だった。しかし、余裕のない毎日の中でも、子供たちの笑顔や明るい声から元気ももらってきた。

全校児童150名と向き合い、心身に寄り添った関わりを心がけているが、一つ一つの対応や処置が正解だったのか、不安は尽きない。

今後も養護教諭である自分自身がゆとりをもつことを大切にしながら、子供や教職員が「ほっ」と安心して利用することのできる温かい保健室をつかっていきたい。

生徒のよさを引き出す

指導について

北部中学校 亀井 主隆



教員となり、生徒や先生方に助けられた1年間だったと感じている。不安の中、何事にもひたむきに頑張る生徒の姿や先生方の手厚いサポートのおかげで乗り越えることができた。今年度は、技術・家庭科の授業や部活動の指導において、生徒のよさを引き出す指導を目指した。よさを積極的に見付けて褒めることはできたと思うが、生徒のよさを生かす生徒主体の授業づくりや、生徒がよさを存分に発揮できる部活動には課題が残った。生徒が生き生きと学校生活を送ることができるよう、教職員の一員として日々研鑽に励んでいきたい。

1年間を振り返って

北部中学校 牧 桃胡



教員になってからの1年間があっという間に過ぎた。楽しみながら学習できる授業を目標としていたが、いざ現場に立つと難しいことだと痛感した。自分自身の未熟さから、生徒にも周りの先生方にも迷惑をかけてしまうこともあった。最初からうまくいくはずがないと分かっていたにも悔しくて落ち込んだ。一方で、生徒の成長に喜びを感じることもたくさんあった。生徒たちから「分かった」「できた」の声が聞けたときはとてもうれしくて、もっと頑張ろうという気持ちになれた。いつも親身になって指導して下さる先生方や、日頃の教育活動に協力して下さる地域の方々への感謝の気持ちを忘れず、これからも生徒たちと共に学び続ける教師でありたい。